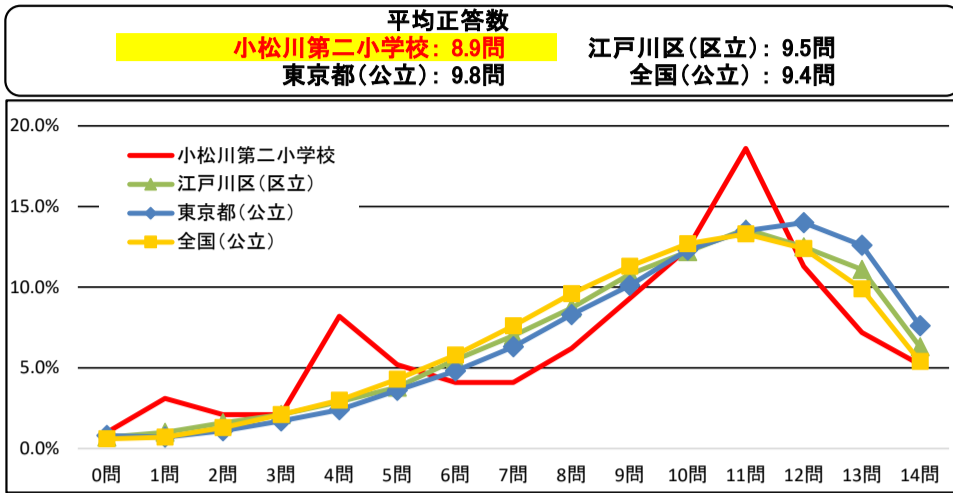


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】小松川第二小学校

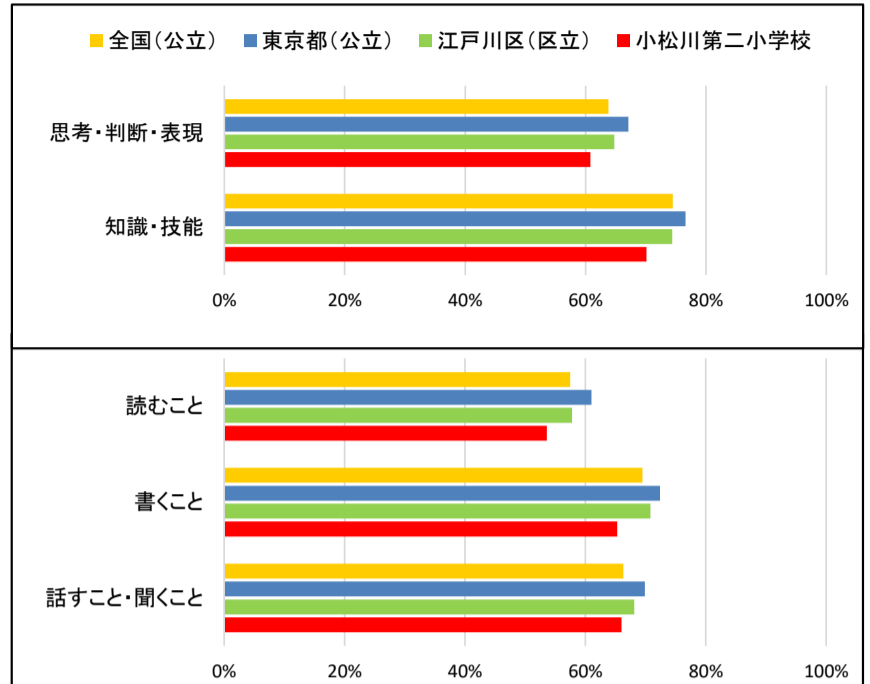
正答数分布



【平均正答率の差】

小松川第二小学校	63%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-7.0

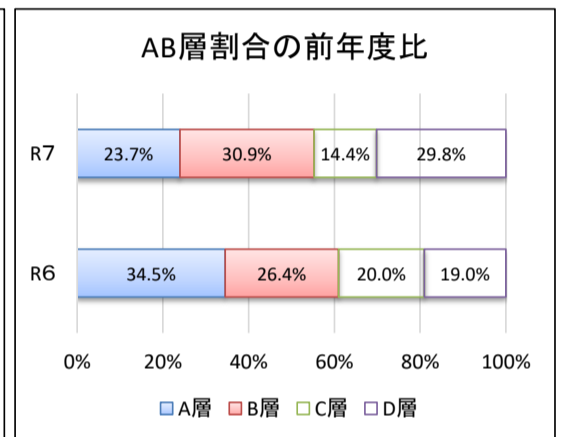
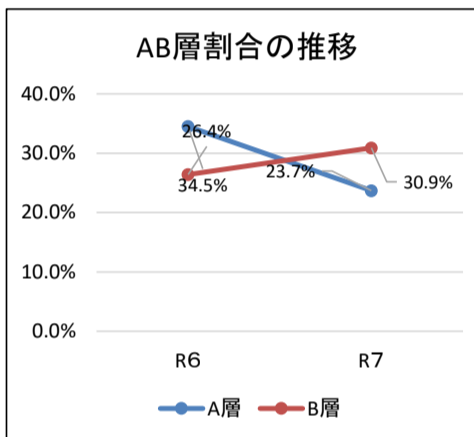
「領域別」の結果



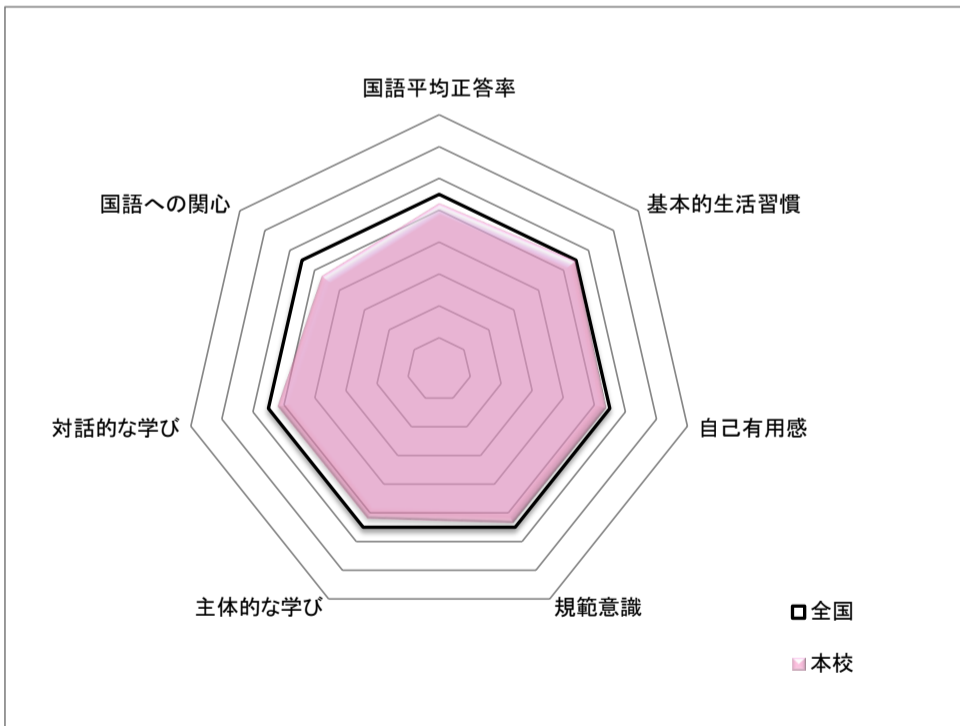
四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	四分位			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
小松川第二小学校	23.7%	30.9%	14.4%	29.8%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・規範意識や学習に向かう姿勢は概ね良好であり、学習に取り組む基盤が確立できている。
- ・一方で、文章全体の構成を踏まえて要点を整理したり、自分の考えを条件に沿って記述する力に影響している様子もうかがえる。
- ・『答えを探す読み方』だけではなく、「筆者の考えや表現の工夫を味わう読み方」を積み重ねていく必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭での読み聞かせや読書の時間を提案し、親子で本の内容について会話する機会を増やす。
- ・家庭と連携しながら、言葉に親しみ、読書を楽しむ環境づくりを進める。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・約55%の児童がAB層に位置している。
- ・B層の中にはA層に近い力をもつ児童も多く、過去問題や類似問題に取り組むことで、問題形式への理解を深め、得点力の向上につなげていく必要がある。
- ・一方で、文章全体を捉えて要点を読み取る力や、自分の考えを記述する力に課題が見られる児童もいる。

・教員の指導力向上

- ・OJT研修や校内研修で学んだ内容を共有し、教員の授業力向上に役立てる。
- ・学校共有の読書カードを活用し、目標を達成した児童を表彰することで、読書に親しむ態度を育成する。
- ・朝学習では「よむYOMUワークシート」を活用し、段階的に読み取る力や要約する力、根拠を見出す力を育成する。

・基礎学力の保障

- ・新出漢字を用いて短文づくりを行い、意味を理解した上で活用できるようにする。
- ・要約学習を通して、文章の要点を捉える力を育成する。
- ・文章を読む際には、大切な部分に線を引きながら読み進める活動を継続的に指導し、内容を正確に読み取る力を高める。

・学習習慣の確立

- ・毎日の家庭学習として漢字練習を継続し、基礎的な語彙力の定着を図る。
- ・江戸川っ子スタディウィークでは、自分で課題を設定して学習に取り組む機会を設け、主体的な学習習慣の育成を図る。

・AB層の育成

- ・文章を正確に読む力に加え、「根拠を基に自分の考えを形成する力」をさらに伸ばしていく。『何となく分かった』状態から、「どこに書いてあったかを説明できる」状態へ高めることを意識する。
- ・授業では、短時間でも「書いて考える」「友達の考え聞いて考え直す」活動を継続的に取り入れ、思考の言語化を図る。